

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行 NO	NO・70	報告者	増田吉信
年 月 日	2009年10月03日(土・晴れ)	2万5千	大町・黒部湖
山 名	後立山・鹿島槍ヶ岳(2889m)～爺ヶ岳(2670m)		
体力度=4・やや厳しい 技術度=3・普通 藪漕=ない 道標=ある トイレ=登山口の大谷原にある 展望度=良い 三角点=ない			
<h2>素晴らしい双耳峰を上る</h2>			
コース とタイム	下土狩4:00—十里木—甲府—大町—大谷原(おおやがはら)8:00—発8:50—西俣出合9:45—赤岩尾根—第一ベンチ10:55—高千穂平11:45—分岐13:40—冷池山荘13:50(先着13:20・宿泊)		
標 高 差	上り 大谷原1132m～冷池山荘2420m=約1288m 下り ない		
参 加 者	CL・後藤隆徳、近森正彦、渡辺正巳、永尾 広、石和佳代子、河野光江、原田伸一郎、村上充彦、村上美恵子、峰田光江、世古悦子、鈴木恵美子、増田真理子、佐々木和夫、増田吉信=全15名		

今回はさわやかハイクに参加させて頂いての3回目の山行、北アルプス三大急登に数えられる鹿島槍ヶ岳への登山との事もあり、若干の不安と緊張を持って参加をさせて頂きました。

日程は10月3日・4日の2日間で予定をしていましたが、前日のお昼まで決定を保留にせざるを得ない天候の悪さ。

正直、サブプランでの山行か！？と参加者の多くが思われていたのではないのでしょうか？後藤講師からの鹿島槍ヶ岳決行！の連絡を知った時には、雨中の山歩きを覚悟しましたが後々、このナイス判断で絶景を目の当たりにし、今までにない感動を得られたのは代え難い経験だったと思います。



いざ、出発！！

朝は若干の小雨が降る中、バスに乗車。闇夜の中でも天候は回復するのだろうか？との不安はなかなか拭えませんでした。

しかし、バスが十里木を抜け朝霧高原、精進湖、中央道と進み目的地に近づくと雨は次第に小降りにはなり徐々に回復する兆しが！ちょっとした晴れ間が見えると車中でも「お！晴れ間が！」などと声が上がるほどとなり、目的地に着く頃には雲さえ若干残っていましたが、見事な晴天に恵まれました。

バスから降り、登山支度をしながら、ある人は準備運動、ある人はちょっと用を足しにとおのおの準備を始め、大谷原（おおやがはら）登山口を予定より50分程遅れて登山開始。

雨上がりのため、道がぬかるんでいるかもとの事で、スパッツもつけて登り始めましたが、思いの他足元は良好で必要がなかったかな？と思えるほど。

とはいえ、登り始めはある程度整備された林道だったので、外す事もなく歩を進めます。西俣出合まではところどころ崖の補修をしている箇所があり、林道には時折、作業車が通ったり、迂回路が作られたりしていました。

林道を進んで行くと目の前の砂防ダム越しに東尾根が見えてきましたが、残念ながら山の頂には雲がかかっており、これから挑む雄大な姿はまだお預けの状態でした。

砂防ダムの手前には休憩所があり、登山者用の地下道?!がある旨の立て看板が。。地下道?!と思いながら歩いてゆくと、なんと砂防ダムにトンネルが！しかも中からは流れる滝を裏から見られるとの趣向も凝らしてあり、大した眺めではないのですが、ちょっと盛り上がりました。

トンネルを抜けると「赤岩尾根・夏山登山口」との看板があり登山道の始まりとなります。ここで、下山者のパーティーと出会いましたが、昨日の天候ではあまり眺望は良くなかったのか「今日は天気良いですえ」「大人数ですねえ」などと、何とも羨ましそうでな顔で声を掛けられたのには何となく気の毒な感じになりましたが、皆さんの分まで絶景を目に焼き付けてきますよ！との思いで、気合を入れて登り始めました。



赤岩尾根はなかなかの手ごたえ



登山道を登る事数分で西俣出合に到着（9：45）ここで1回目の休憩をとります。雨上がり後のせいで蒸すのか、汗がいつも以上に流れており、被っていた帽子のつばがびしょびしょ。登山道のコンディションも良好のようなのでスパッツは外し、腕もまくって衣服調整を行ないます。コースタイムより若干速いペースのようですが、体調的には問題ないので気にせず軽く水分を取ります。休憩中も視界は良好で、天候も快晴いい感じですよ！

赤岩尾根の始点とある西俣出合からは急な登りが始まります。赤岩尾根は北アルプス三大急登との事で覚悟はしておりましたが、登山道は整備がされていて大変登りやすい気がします。危険な箇所には階段や梯子が設けられており、安心して登れるのではないのでしょうか。（でも、大変なのは大変でしたが。）紅葉も今ひとつであったためか、なぜか話は秋の味覚に。。。キノコやアケビなどの名前が飛び交い、さながら花より団子の状態です。

登りが続くため、気分転換も含めて周りの景色を眺めながら歩を進めますが、衣服調整したに関わらず相変わらず汗が凄いです。

帽子のツバからは、まるで雨の中を歩いているかの様に、ぼたぼたと水滴がたれてくる始末。こまめに水分を取りながら歩を進めます。

途中、第一ベンチとの看板がある箇所で一回休憩（10:45頃）を取りましたが、このあたりから山の雰囲気が変わり始め、今までにはあまり目に付かなかった紅葉した木々も現われ、急登稼いだ標高を改めて感じさせてくれます。

気温も下がって来たのか、今まで悩まされていた汗もあまりかかなくなっていました。

ただ、残念ながら高千穂平に着く頃（11：55）には辺りに霧が出始め、景観はあまり望めなくなり、寒さも増してきたようで、休憩中には一枚上に羽織らないと肌寒い状況へと急変。確かに、登り始めに砂防ダムから見た頂には霧がかかっていたから、頂に近づいた証拠ではあるのですが、霧が晴れていればこの辺りからも双耳峰が望めたのでは？と思うと残念ではあります。

高千穂平にて、後続隊と若干間が開いてしまったので、後藤講師より無線機をお預かりし後続隊を待つ事になりました。待つ間にも先に行く先発隊の姿が霧の中から見えましたが、時折無線機から「この辺りに白玉の実があるよ」との説明が入り、何とも不思議な感じが。暫くして後続隊とも合流し、無線機の受け答えもレクチャーして頂きながら霧の中、登山道を進んで行きます。

これが「白玉の実」だね、などと先に行く先発隊からの情報を確認しながら登るのもまた楽しいもので、「もう花は終わってしまっているらしい」「今日はビアより熱燗だね」などと逐一入る情報から、時期が遅かったのかな？上は寒いのかな？など思いをめぐらせながら、あーやっぱり遅かったね～、おお、やはり気温が低いね～など、その場で会話をするのとは違った楽しみがあり、霧の中黙々と歩く中の清涼剂的な趣がありました。

暫くすると「念願の尾根に到着！」との知らせが入り、あたかもベースキャンプでアタック隊の知らせを受けるクルーのように「おお！やった～！」と言った感じで盛り上がり、自分たちももう少しだから頑張ろう！との気合が入ります。

ただ、赤岩尾根分岐に近づく頃には霧もかなり深くなり、登山道も片側崖の注意箇

所に差し掛かってきたので、焦る気持ちを抑えより慎重に歩を進めます。片側には、踏み外せば滑り落ちてし合いそうな崖が覗いているので、ここで滑り落ちては大変ですから。。。

先発隊より遅れる事約30分、全員無事に赤岩尾根分岐に到着(13:40)。後藤講師に無線で「到着！」の連絡を入れたところ「あと10分ぐらいだからがんばって！」との激励をいただき、一路山小屋へ向かいます。歩を進める事10分、外のテラスでビアを飲んでいる先発隊に迎えられて、今夜の宿泊地となる冷池山荘に到着(13:50) 先ずは、全員無事初日の行程をクリアできました！

山小屋の部屋に案内をされると、何とも綺麗なお部屋。しかも嬉しい事に一人に一枚の布団が！過去の経験では3人で2枚や、8人部屋に10人など窮屈な経験ばかりでしたが、何とも快適な空間にビックリ！

荷物を置いて一段落したところで、談話室にて交流会です。皆さんの話もありあがり、お酒のピッチも進んだ頃には、今まで掛かっていた霧もすっかり晴れ上がり、明るい山の日差しが談話室に差し込んできました。

明日帰路に昇る爺ヶ岳もクッキリと顔を見せてくれて、鹿島槍ヶ岳へのアタックにも期待が持てる兆候を示してくれて居るようでした。

冷池山荘は、なかなか素敵な小屋だった

